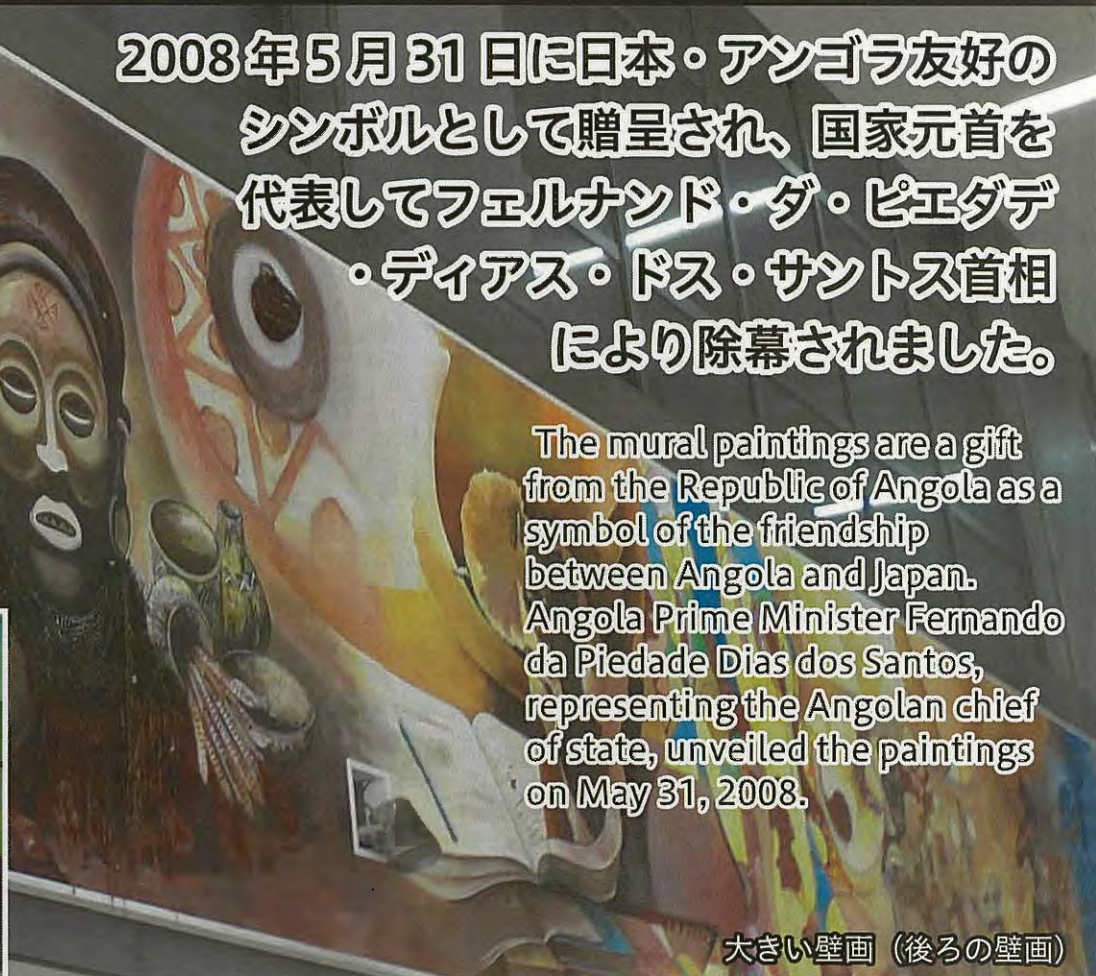


アフリカ・アンゴラ共和国と横浜市・都筑区の友好の証

The two mural paintings at Center Kita Station
Proof of the goodwill between the Republic of Angola and Yokohama City's Tsuzuki Ward



小さい壁画（2階・3階エスカレーター横）



大きい壁画（後ろの壁画）

2008年5月31日に日本・アンゴラ友好のシンボルとして贈呈され、国家元首を代表してフェルナンド・ダ・ピエダデ・ディアス・ドス・サントス首相により除幕されました。

The mural paintings are a gift from the Republic of Angola as a symbol of the friendship between Angola and Japan. Angola Prime Minister Fernando da Piedade Dias dos Santos, representing the Angolan chief of state, unveiled the paintings on May 31, 2008.

壁画の由来

センター北駅構内に飾られている2枚の「壁画」は、2008年に「第4回アフリカ開発会議（TICAD IV）」という国際会議が横浜で開催されたときに、アフリカの「アンゴラ共和国」から両国の友好・親善の証として制作され、贈られたものです。

このとき、会議の参加国を各駅で紹介する「1駅1国運動」が開催され、センター北駅ではアンゴラ共和国を担当した経緯から、これらの壁画がセンター北駅に設置されました。

壁画の大きさ

大きい壁画（後ろの壁画）は、高さ2.5m・幅18mです。小さい壁画（2階・3階エスカレーター横の壁画）は高さ1.75m・幅6mです。実際の民族衣装の素材なども付けられており、立体的で迫力ある作品となっています。

壁画のテーマ・制作の様子

壁画のテーマは2枚とも「友情の証」です。タイトルはありませんが、民族楽器やカーニバルなど自国の文化を鮮やかに表現しています。

また、この壁画はアンゴラ共和国政府文化庁から派遣された4人の画家が、5日間かけて描き上げました。



壁画制作の様子

「アンゴラ共和国」とは

アンゴラ共和国



アフリカ大陸南西部に位置する共和制国家で、首都はルアンダ。人口は約2500万人。面積は日本の約3.3倍。旧ポルトガル植民地であり、1961年からアンゴラ独立戦争を戦い、1975年に独立。独立後は長期に渡り内戦が続きましたが、2002年の終戦後、近年は石油やダイヤモンドなどの豊富な資源を背景に経済発展を続けています。

写真提供：
駐日アンゴラ共和国大使館
地図出展：Wikimedia Commons

アンゴラ共和国と横浜市・都筑区の関係

壁画の完成を記念が完成した2008年5月31日には、市営地下鉄センター北駅で駐日アンゴラ共和国大使館主催の贈呈式が行われ、アンゴラ共和国のフェルナンド・ダ・ピエダデ・ディアス・ドス・サントス首相をはじめ、多数の関係者が出席して盛大に除幕されました。

2014年11月3日には、都筑区制20周年記念事業として、アンゴラ共和国と横浜市・都筑区の交流イベント（主催：都筑区、横浜市交通局、特別協力：駐日アンゴラ共和国大使館）を開催、駐日アンゴラ共和国大使館のジョアン・ミゲル・ヴァヘケニ特命全権大使も式典に出席してくださいました。

今後も2つの国をつなぐ友好の証であり、貴重な財産であるこの壁画を大切にしていきます。

設置者：都筑区役所 地域振興課



2008年の贈呈式での記念写真



2014年の交流イベントでの記念写真